

—総括表—

◆ 事業計画

地域の現状と今後の方向性

港南中央地域ケアプラザの担当エリア(上大岡、笹下、日野第一)は鎌倉街道・環状2号線・笹下釜利谷道路の大きな3つの幹線道路に面し、地下鉄やバス等の交通網は充実していますが、その反面、主要道路の左右は急な山坂で道路幅も狭く、車が通れない場所もあることから、高齢者・障害児者・乳幼児をもつ親にとっては、外出や買い物等がしにくい状況が見られます。また、どの地区も高齢化率は区平均を下回っていますが、丁目別に見ると30%を超える地域もあります。住民相互の助け合い活動である「福祉ネットワーク」に関しては周知不足や担い手不足などの課題はありますが、どの地区も早くから活動が実施されており、住民同士の支え合い活動の土壌ができています。

当ケアプラザの担当エリアが広いため、ケアプラザまで遠い方は足を運ぶ機会が少なく、ケアプラザの役割等の周知が十分行き届いていないことや、講座に参加できない現状があります。そのため、近隣の区民利用施設等と連携した講座や、出張相談を開催することで、日頃ケアプラザを利用しない方にも周知をすることや、相談がしやすい関係づくりを行っていきます。また、身近な場所での住民同士の交流のきっかけづくりや、自立支援のための拠点となる場所(介護予防教室等)を作っていきます。

高齢者の方が増えるにつれて、認知症の方も増えることが考えられます。地域や中学校等に認知症サポーター養成講座を継続して開催することで、多くの世代の方に理解を広げることや、企業等からの依頼がある「認知症の方に対する具体的な対応方法」についての講座も開催をしています。企業からの依頼は潜在的にもまだまだ見込まれると考え、業務にて認知症の方への対応に悩んでいる生活に密着した企業・商店等へ働きかけて、さらなる講座の開催へ繋げます。地域の方に限らず、企業等が、地域の一員として、認知症についてより理解が深まることにより、認知症の方と家族が、安心して生活することができるように取り組みます。

また、高齢者の方が在宅生活を続けていくにあたり、介護保険だけではなく、医療機関との連携や、地域の方のゆるやかな見守り、介護保険外のサービスの活用など、様々な方との連携がより一層必要になってくると考えています。関係する方々と情報交換や困りごとの検討をする仕組みを作ることによって、高齢者の方が住み慣れた地域で自分らしい暮らしを続けられるように取り組んでいきます。

地域福祉保健計画の推進については第4期の2年度となります。支援チーム会議の場を設けて、地域の方とともに計画に沿った取組をチームとして実現できるよう支援してまいります。コロナ禍ではありますが、感染予防策を実施しながら、目標に沿った事業を展開してまいります。

今年度の重点的な取組

新規	継続	—具体的な取組内容—
<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	引き続き、身近な場所で密を避けた少人数での居場所・拠点作りをすすめ、地域や近隣の区民利用施設等と連携して事業等を開催することで、日頃ケアプラザを利用しない方にも周知をすすめます。
<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	Wi-fi、ホームページといったICTを事業や会議等に積極的に活用し、ウィズコロナでの情報共有・交流について検討・実行します。
<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	認知症の方、家族、地域の方、専門職が立ち寄れる機会をつくり、その場において認知症に関する情報が得られるようにする。
<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	災害時要援護者である障がい児者・高齢者と地域等を、「防災」をキーワードにしてマッチングを行い、それを有事の備えと平時の見守りにつなげる。

◆ 事業報告・事業実績評価

振り返り

身近な場所での居場所作りのため、ケアプラザで開催のロコモ体操講座をZoomを使用してケアプラザから遠い町内会館で中継・実施した。
Wi-fiやZoomを使用して、ケアプラザで開催の意見交換会を密にならない工夫をしたり、デイサービスのボランティア活動を2階貸室と1階デイルームをつないで行った。
認知症カフェ「ふらっとほーむ」を、傾聴ボランティアの方を中心に安心して過ごせる居場所として、また本人や家族以外の方と語ることができる場として定期開催できている。
区社協と協働で、当事者が防災訓練に参加する機会を設け、そこからその経験談や災害時の不安に感じている事を地区社協研修でお話していただくことで、有事の支援と平時の見守りについて地域の皆さんに考えて頂けた。

区からのコメント

担当エリアが広く、エリアにより特徴も異なるため地域づくりの難しさがあると思います。その中でも地域活動に積極的に参加し、地域で収集した情報を5職種で共有を行うことで、新たな通いの場の形成や認知症カフェのサテライト会場開催という成果につながっています。今年度は地域づくりの足掛かりとなる取組みが進み、身近な場所での集いの場が増えました。次年度は、地域づくりの手段として地域ケア会議も活用することで、地域課題の抽出や解決に向けた取組みが展開されることを期待します。

コロナ禍の活動として、ICTを積極的に活用されているところは素晴らしいと思います。次年度以降、コロナが落ち着いた後の活動にも生かしていけるような取組みを期待します。区社協との協働による防災訓練など今後も様々な機会を通じケアプラザの役割を周知して頂ければと思います。また、地福計画に沿った取組を地域の方々と検討し情報交換ができています。今後地域の方々が自ら主体的に計画し実施していけるよう方向づけてもらえることにも期待します。